

誰にでも優しいまちを目指す
NCGG-UniCoプロジェクト

プロジェクト背景と意義

国立長寿医療研究センター老年社会科学研究部
斎藤 民

本研究は長寿科学振興財団「令和5年度長生きを喜べる
長寿社会実現研究支援」の助成を得て実施しております。

本研究に係る申告すべき利益相反はございません。

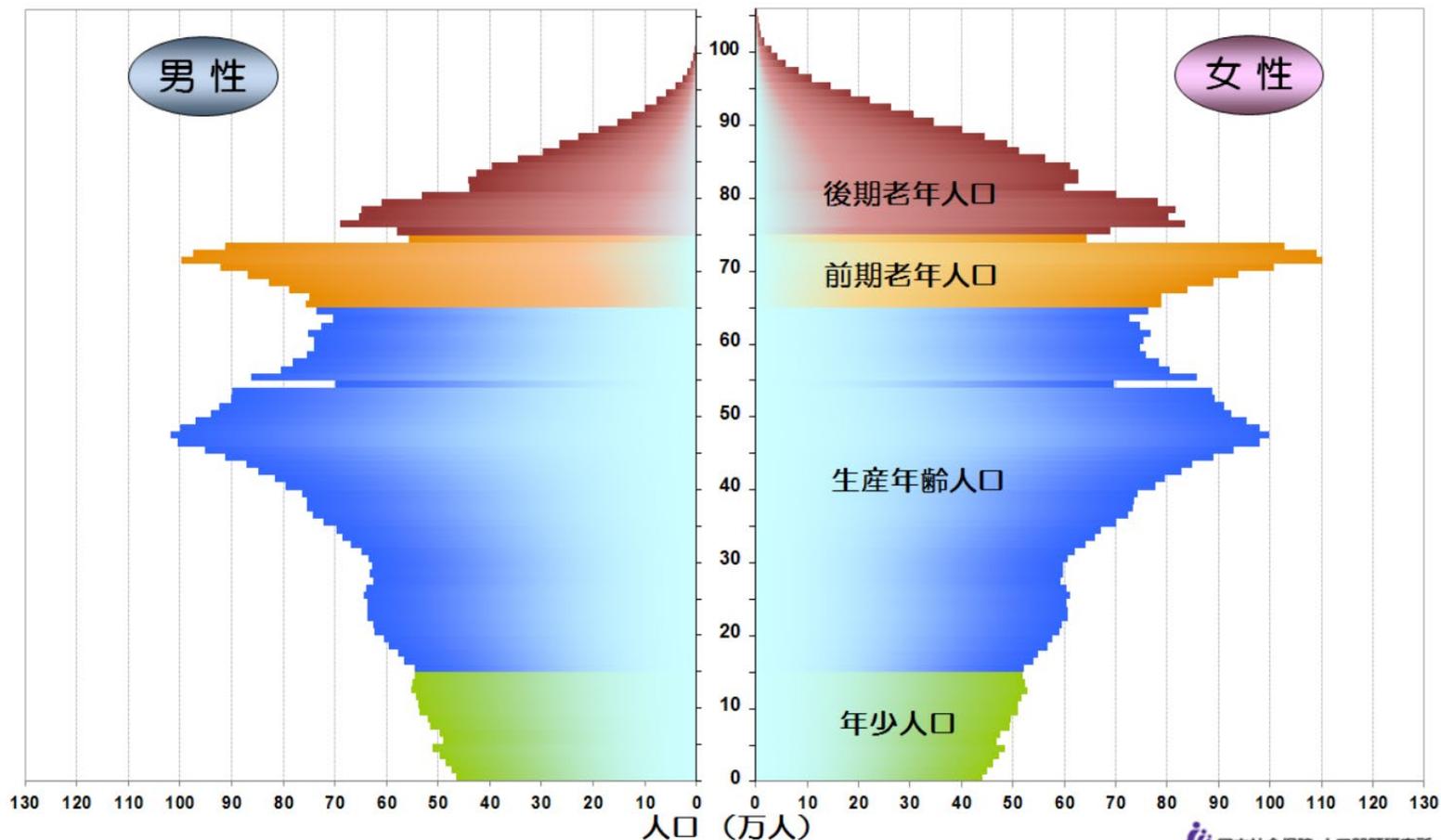
構成

- UniCoプロジェクトの背景
- UniCoプロジェクトの紹介
- コンソーシアム
- まとめ

UniCoプロジェクトの背景

超高齢社会日本のすがた

2020



資料：1965～2015年：国勢調査、2020年以降：「日本の将来推計人口（平成29年推計）」（出生中位(死亡中位)推計）。

国立社会保障・人口問題研究所

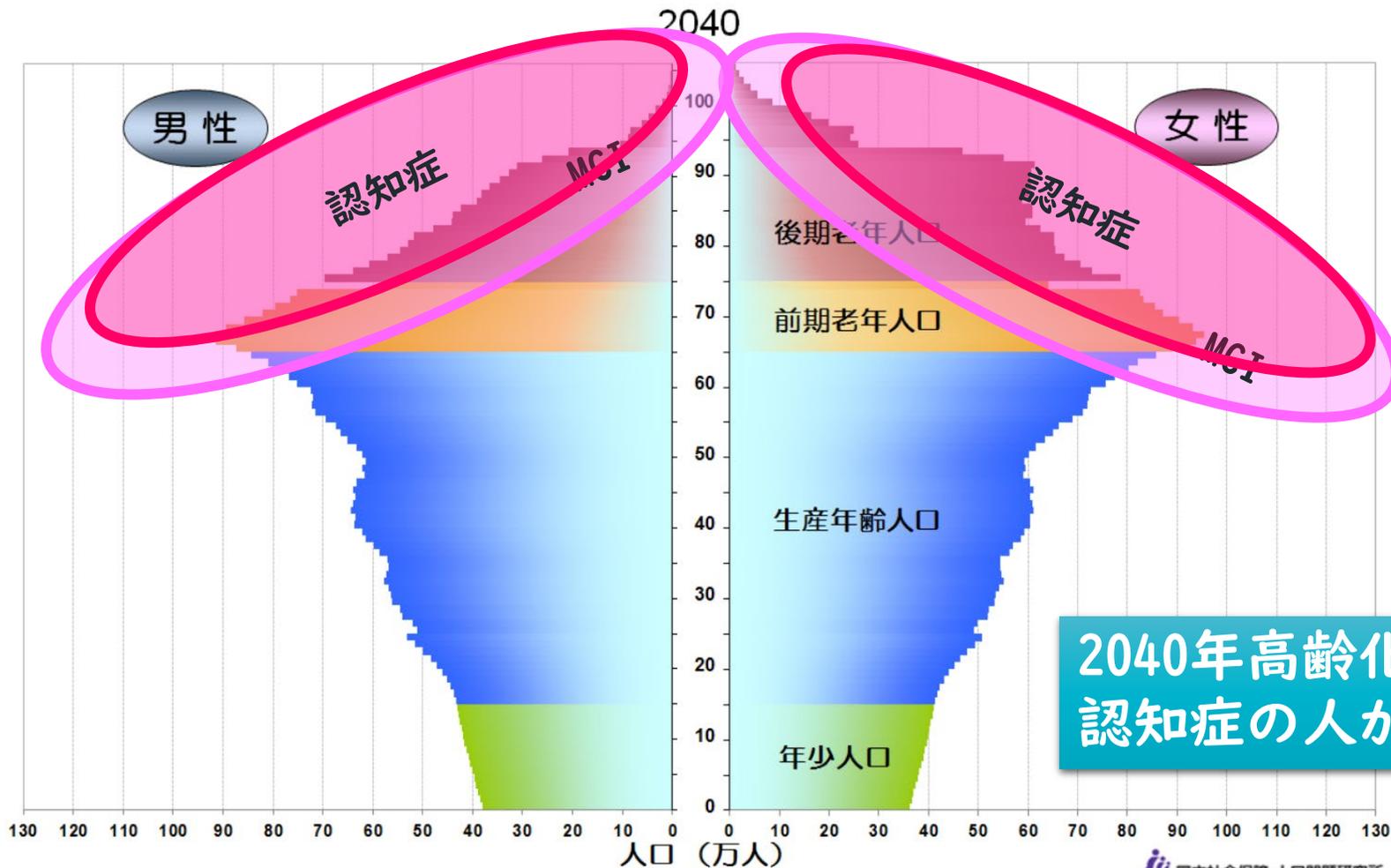
高齢化率（2021）：29.1%

うち後期高齢：15.0%

（総務省推計）

平均寿命（2021男）：81.6歳

平均寿命（2021女）：87.7歳



2040年高齢化率推計35.4%
 認知症の人が全人口の1割近くの可能性

資料：1965～2015年：国勢調査、2020年以降：「日本の将来推計人口（平成29年推計）」（出生中位(死亡中位)推計）。

国立社会保険・人口問題研究所

認知症やさまざまな障害があっても

社会生活や経済生活を継続できる

社会でないと、成り立たないのでは？

・

ケアの受け手としてのみ捉える発想から、
社会がどう変われば活躍できるのかに転換

日本における共生社会づくりの成果



- 優れた人材育成・顧客サービス
- 世界に類をみない認知症サポーター約1500万人 

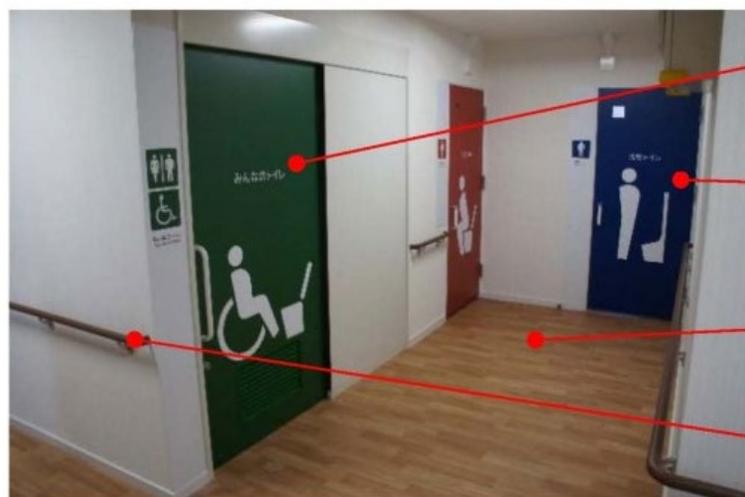


しかし人手不足が進み、人の努力では限界。ではどうしたら？

自然と行動できてしまう まち・ものへの転換



Designing for dementia.
認知症未来共創ハブ



トイレの扉など目立たせたい場所は
周囲の壁とのコントラストをつける

文字とピクトグラムを併記し、目線
の位置に掲示したサインの設置

空間認識をしやすいするため、壁と
床のコントラストをつける

手すりを目立たせ利用を促すこと
で、転倒リスクを軽減する

迷わず行けてしまうトイレ

3. 毎日数回行う「歯みがき」を、自分自身で行えるようにサポートする歯ブラ
シデザイン



左：2ウェイ・イージー・グリップ歯ブラシ

右：スーパーブラシ

(https://designing-for-dementia.jp/design/009_casestudy_health/)

「歯が磨けてしまう」歯ブラシ

認知機能低下にやさしい環境づくりは大きく遅れている

認知症フレンドリコミュニティの紹介（筑波大学）

認知症の人にやさしいまちづくりの10の評価項目

- 1) アート・スポーツ・レクリエーション
- 2) 企業・商店
- 3) 子ども、若者、学生
- 4) 地域住民やボランティア
- 5) 消防・救急・警察
- 6) 医療福祉
- 7) 住居
- 8) 移動・交通
- 9) 働く場づくり・社会への参画
- 10) 認知症の人の声の反映

(<https://dac.tsukuba.ac.jp/l00dfc/index.html>)

- 全国各自治体・コミュニティの先進的な取組みを紹介
- **活動、参加機会の提供、就労、人材育成、システム中心**



ハコ、モノ、デザイン整備を推進する必要あり

大規模

安全でわかりやすい歩道



(<https://dementia.ie/wp-content/uploads/2018/01/UD-DFH-Guidelines-2018-Full-doc-lw-res-compressed-A1.pdf>)

認知症にやさしいデザイン(福岡市)

認知症の人にもやさしい デザインの手引き

より過ごしやすい環境を
整える30のポイント



5つの視点

「記憶に頼らず行動できる空間づくり」「安心して自分で選べる居場所づくり」を
実践するため5つの視点を設け、具体的なデザインの30のポイントをまとめました。

A 色(明度)の組み合わせ



B サインと目印の活用



C 明るさの調節



D 親しみや安心感への配慮



E 安全な屋外空間



第4章 デザインの導入実践例

デザインの導入実践例

認知症の人にもやさしいデザインを堤公民館(城南区)に導入し、認知症の人や公民館
の利用者にインタビューとアンケートを実施しました。

ここでは、堤公民館に導入したデザインの一部についてご紹介しますが、デザインの
導入にあたっては、以下に示したデザインを一律に導入するのではなく、関係者で話し合
い、施設の利用目的や利用者の状況などを踏まえたデザインを導入することが大切です。

活用した主なポイント 1 明度のコントラストを強くする

講堂



講堂の場所をわかりやすくするため、壁と扉のコ
ントラストをより明確にしました。また、記名サイン
を目線の高さに大きく設置しています。

廊下



空間認識をしやすくするため、床と壁のコントラ
ストをつけました。

役立つ工夫①

男女共用トイレ

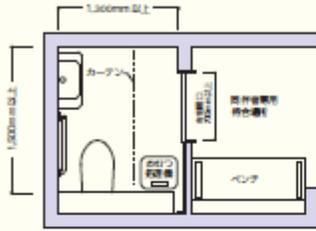


図 同伴者が利用可能な男女共用トイレ案

駅や商業施設などで、夫婦や異性の親子などが別々に男女別トイレに入った後にはぐれてしまい、警備に検水機を出したり、「介護中」の札を首から下げ、女性トイレに入る妻を介護するなど、同伴者（介護者）が異性だったために、男女別のトイレを利用して苦勞したり、深刻



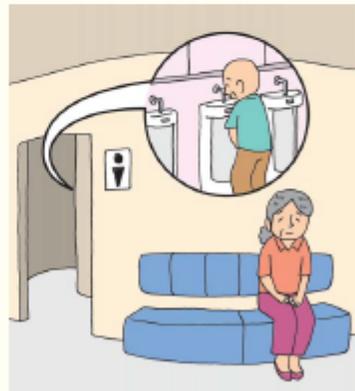
なトラブルを経験した人が少なくありません。車椅子トイレほどの広さが必要ありませんが、男女が一緒に入ることができる大きめのトイレがあれば解決できることがたくさんあります。

役立つ工夫②

待合場所（ベンチ）



商業施設の男女別トイレの前で、異性の同伴者が立っているのは、怪しまれることもあります。そんなとき待合場所があると抵抗なく待っていられます。また、認知症の人が男女別トイレに入った後、はぐれてしまうトラブルを防止するために、落ちついて同伴者を持つことができる待合場所はありがたいです。

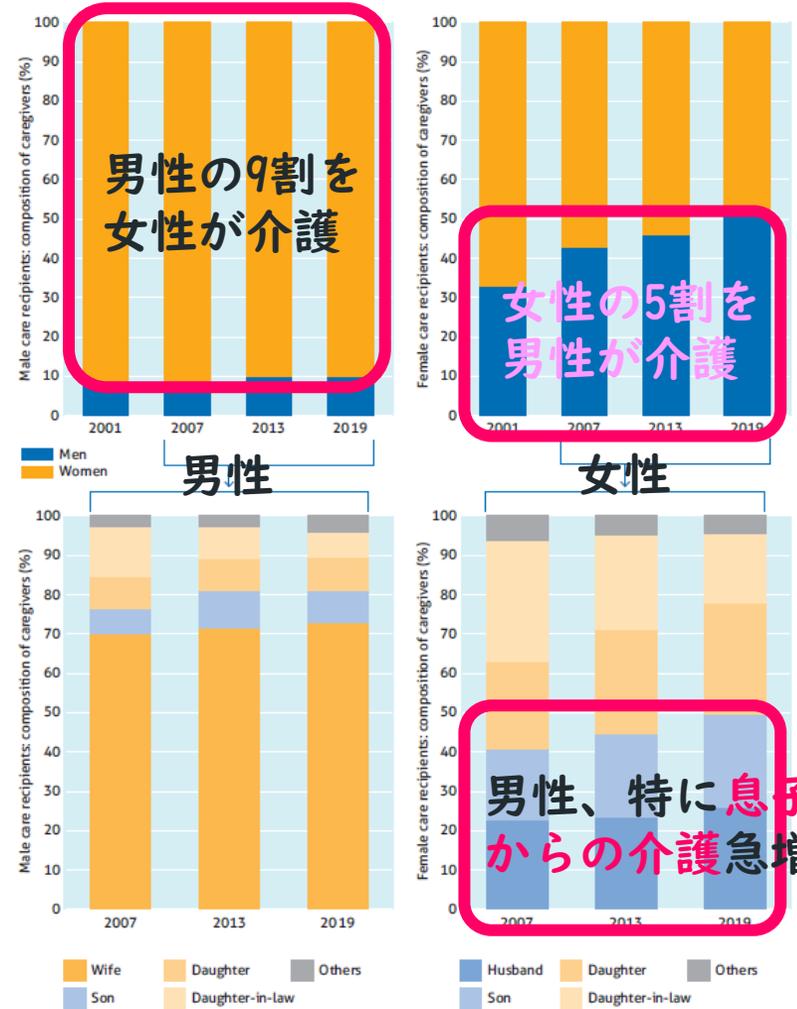


なお、ショッピングセンターでは混んでいる時間帯によっては通路などに置かれているベンチはすぐに一般の人が利用してしまい、実際に利用したい時に利用できない場合が多いので、左上の平面図（同伴者が利用可能な男女共用トイレ案）のように同伴者専用の待合場所があれば誰の目をかけずに、同伴者が誰の外で見守ることができます。

要介護高齢者の性別にみた介護者の性・続柄

：異性介護が主流、今後ますます増加

Fig. 1.9. Changes in percentage of co-resident men and women family caregivers for older men and women needing LTC in Japan.





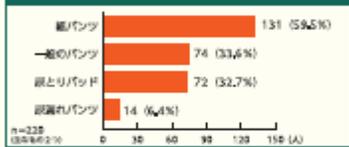
欲しい設備①

大人用おむつ 自動販売機

アンケート調査から、外出時に着用する下着は一般のパンツよりおむつ（紙/パンツ）が多いことがわかりました。また、「外出先で失禁したが、昔えの紙パンツを持っておらず、介護者がドラッグストアへ買いに走った」、「ドラッグストアで替えのおむつを買おうと思ったが、大きなパッケージしか売っておらず、持ち帰るのが大変だった。1枚単位で買える自動販売機があると良いのに」といった意見が複数ありました。最近のショッピングセンターなどでは、乳児用のおむつの自動販売機がトイレの近くに置かれているのを見かけることがありますが、今後は大人用のおむつの自動販売機が必要になってくると考えます。



外出時に着用する下着



欲しい設備②

大人用おむつ 処理機

アンケートやインタビュー調査では、「使用済みの紙パンツやおむつはズバリ重くなり、自宅まで持ち帰るのはとても大変なので、捨てられる処理機がほしい」という意見や「男女別トイレの個室にも尿とりパッドを捨てられるゴミ箱がほしい」という意見がありました。



- 大人用おむつ処理機はすでに開発
- 容積が大きいいため普及に課題も
- 外出におけるトイレニーズは大きい
- 普及すればインパクト大の可能性

【研究チーム】
野口祐子（日本工業大学）
西村 康（横浜市総合リハビリテーションセンター）
高橋健平（東洋大学）

【お問い合わせ】
日本工業大学建築学部建築学科生活環境デザインコース
教授 野口祐子 (noguchi.yuko@nit.ac.jp)
TEL: 0480-34-4111 (代線)

(野口祐子編, 2018)

小規模

認知症にやさしい食器

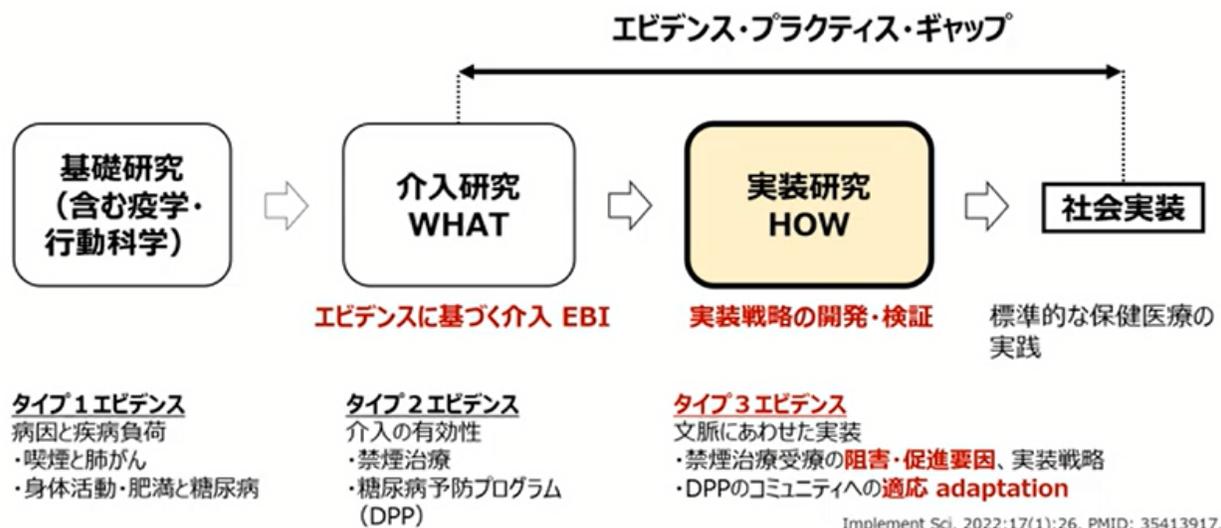


実際に摂取量が増加との報告も

課題：科学的根拠と普及

- その成果物は、本当に役に立った／行動や意識を変えたのか？
- 政策・サービス実践や普及のうえでは、「きちんとした」根拠が必要

実装研究の位置づけ



(<https://www.radish-japan.org/>)

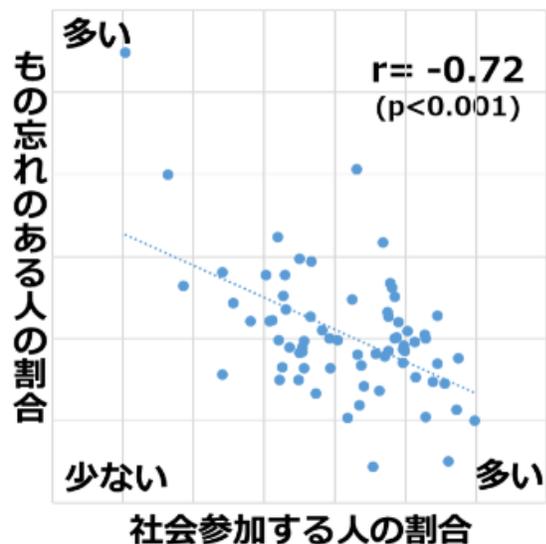
UniCoプロジェクトの紹介

社会参加がなぜ重要なのか？

- 社会参加は心身の健康や幸福感の向上に寄与
- 健康な人に留まらず疾患や障害をもつ人にも重要

社会参加する人が多いまちほど、もの忘れのある人の割合が低い

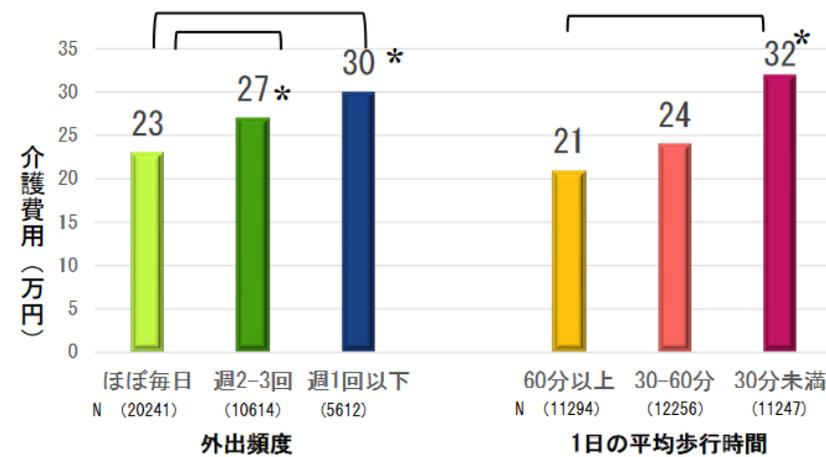
社会参加と「もの忘れ」の偏相関



(JAGES, 鄭丞媛先生資料, 2019)

活動性の低い高齢者の介護費用は高くなる

高齢者の活動性とその後の介護費用(59か月間)

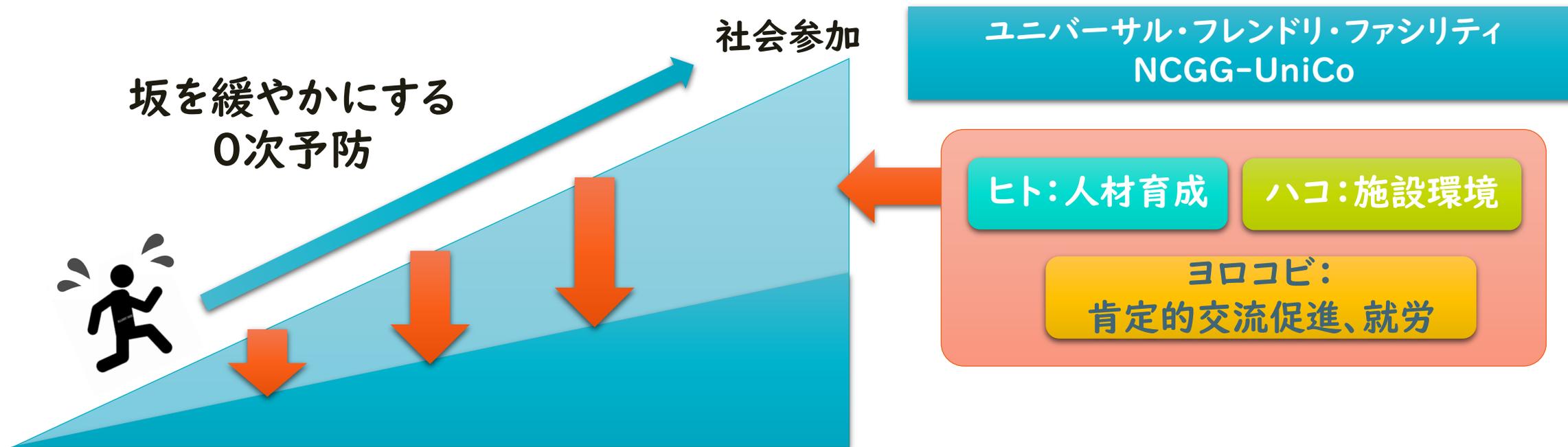


高齢者の活動性

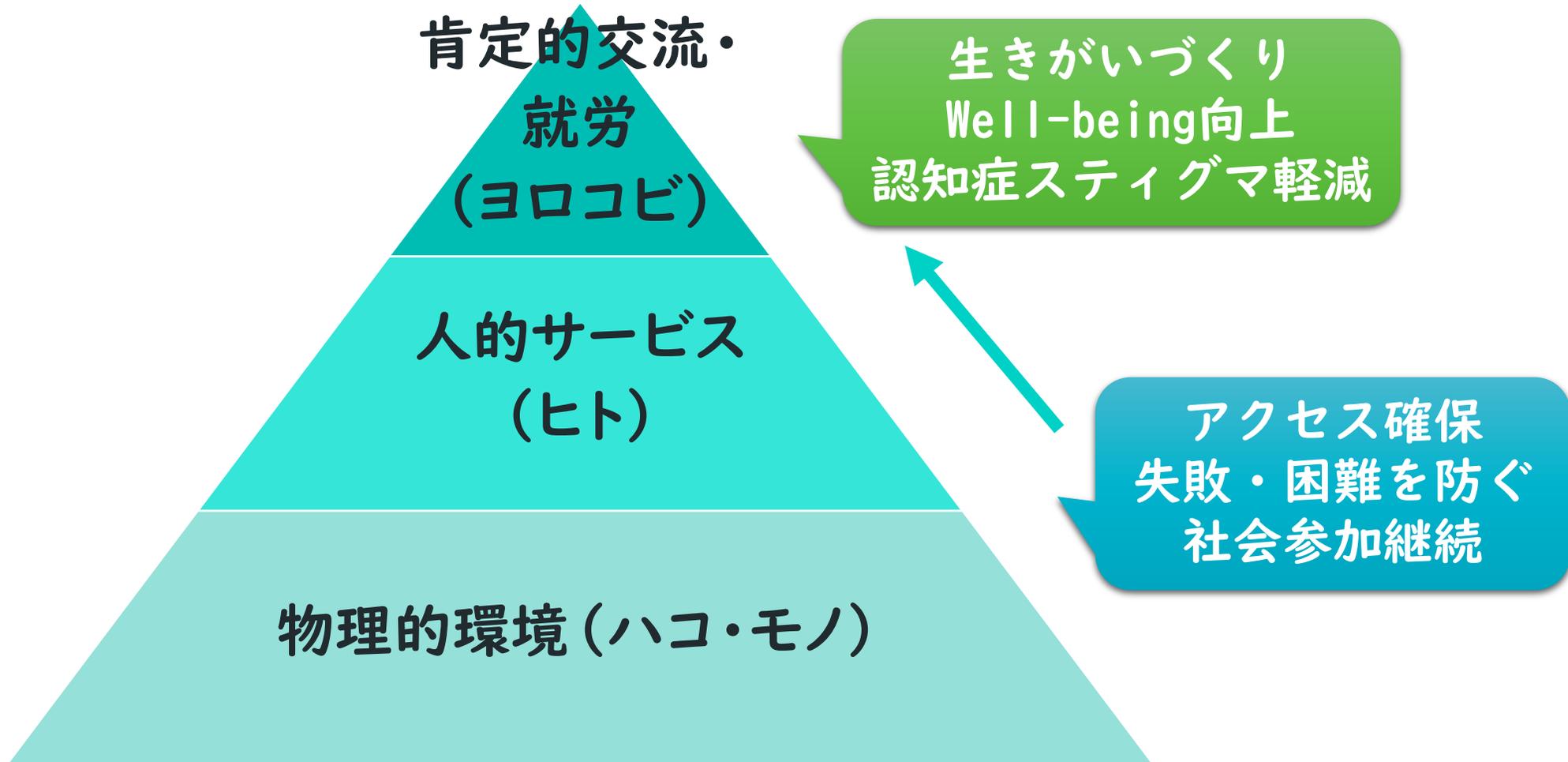
(JAGES, 平井寛先生資料, 2021)

UniCoプロジェクトの基本コンセプト

すべての人に社会参加とウェルビーイングを



社会参加とウェルビーイング向上をもたらす 3つの要素



ヒト

ハコ・モノ

ヨロコビ

スローショッピング（マイヤスーパー様）



現在の取り組み内容①

- ・マイヤテラス内で「くつろぎサロン」を提供しています
- ・買い物の前後に一息。介護の悩みを相談したり、おしゃべりや歌を歌ってくつろぎます
- ・いろんな人とのつながりの場となっています



現在の取り組み内容②

- ・買い物の手伝いを希望する方にはパートナーが一緒します
- ・その方のペースに合わせて、ゆっくりお買い物できます
- ・会計は、認知症サポーターの従業員が対応する「優先レジ」を利用できます



(<https://www.maiya.co.jp/support2/>)

「ヒト」 + 「ハコ」 + 「ヨロコビ」 の複合サービス

就労

- 生きがいづくり
- 特に若年性認知症の方のニーズあり



(<https://www.kodamanotsudo.com/2020/03/20/%E8%8B%A5%E5%B9%B4%E6%80%A7%E8%AA%8D%E7%9F%A5%E7%97%87-%E5%B0%B1%E5%8A%B4%E5%9E%8B%E3%83%87%E3%82%A4%E3%82%B5%E3%83%BC%E3%83%93%E3%82%B9-days-blog/>)



愛知県岡崎市

-Okazaki-

認知症の人が常時働く沖縄そば食堂

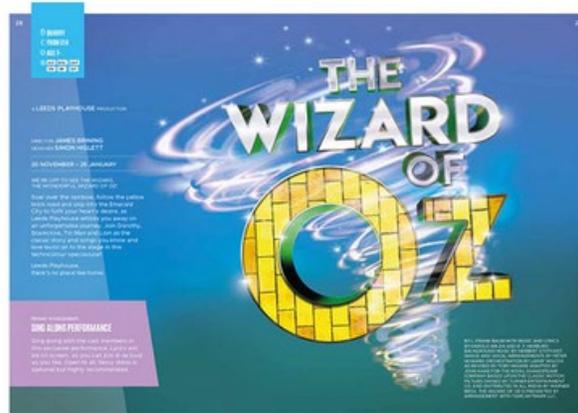
Okinawa soba cafeteria where people with dementia always work

(<https://dac.tsukuba.ac.jp/100dfc/aichi-okazaki.html>)

認知症にやさしい観劇



2014年から認知症フレンドリーな舞台公演を続ける、英国北部の劇場「リーズ・プレイハウス」 ©Leeds Playhouse



2019年秋冬の認知症フレンドリー公演は「オズの魔法使い」 ©Leeds Playhouse

(https://designing-for-dementia.jp/design/006_casestudy_play/)

- 介護者の会の方からも今回「一緒にコンサートに行きたい」というコメントあり
- 芸術・文化活動はウェルビーイング向上と関連 (Noguchi, et al., Intl J Geriatr Psychiatr, 2022)

UniCoの強み

- 研究機関がデータに基づき効果を科学的に検証
- 認知症専門医やリハビリ職を含む多様な専門職チーム体制
→ 医学的観点からも「認知機能低下に優しい」をチェック
- 当事者・ご家族の参画
→ 当事者・ご家族との共同開発が可能に
- オレンジタウン構想の地、大府市・東浦町において協力体制を構築

認知症の人の外出の特徴が明らかに

- 認知症になると、どこにどう行けなくなる？
- 認知症になったとしても行き続けたい場所はどこ？

- **一般高齢者と軽度要介護認知症自立度低下者との比較調査**

- 要介護高齢者 : 2023年11月に知多北部で新規認定者全数調査実施
- 健康高齢者 : 2023年12月に大府市で無作為抽出による調査実施

- **国内外でも貴重な知見**

当事者や家族の「生の声」を集約

- ・ 認知症の人と家族は実際に外出して何に困っている？
- ・ 何があると助かる？

・ まち歩き調査

- ・ たどり着いて、買って、食べて、何に困った？
- ・ ケーススタディ
- ・ イオンモール東浦様
- ・ JAあぐりタウン「げんきの郷」様 ご協力予定

・ 東浦町介護者の会アンケート

- ・ 2023年11月
- ・ 回答:8名
- ・ 外出して困る先
- ・ 不安内容・困ったこと
- ・ 外出し続けたいところ



(承諾を得て撮影)



(<http://www.agritown.co.jp/hanamaru.php>)

効果検証

- 2023～2024年度 **試行によるユーザビリティ評価**
 - 利用者（使用満足度、困難度、道迷い回数、購買意欲、等）
 - 社員等（対応回数・時間、満足度等）
- 2025年度～ **効果検証（クラスター無作為化比較試験等）**
 - アウトカム
 - 社会生活機能、認知症スティグマ軽減（研究）
 - 地域の健康（ウェルビーイング）、医療介護費抑制（行政・住民）
 - 顧客満足度、利用者数、販売額等（産業）

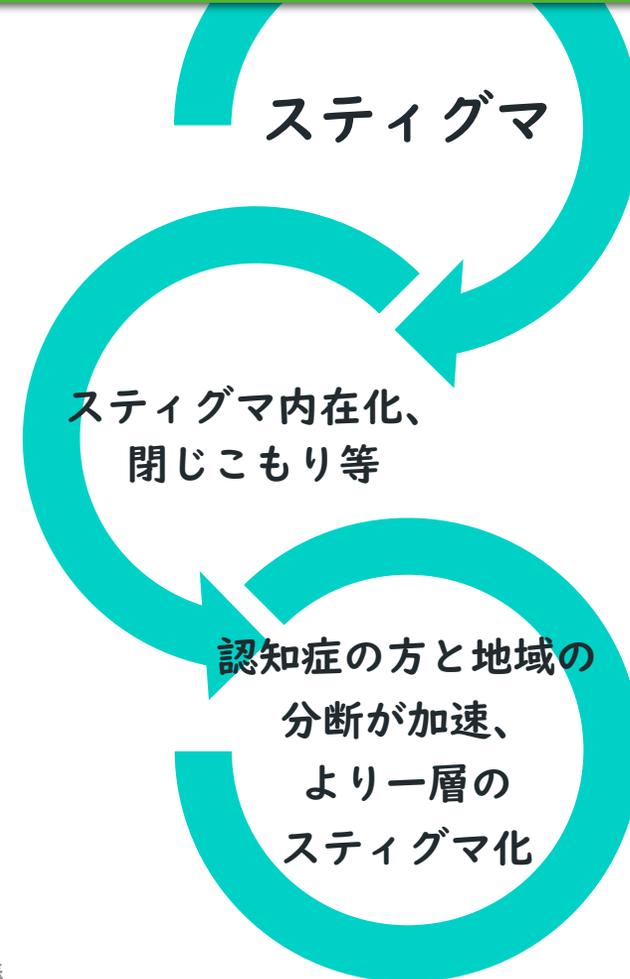
UniCoの目指すアプローチ

- **ユニバーサル**であること
 - 認知症の人だけではなく、**誰にでもやさしい**
- **Win-win**であること
 - 利用者だけではなく、**提供者（企業、行政）にもやさしい**

社会参加を妨げる「スティグマ」軽減が重要

- 認知症スティグマは、認知症のある人に対する偏見・差別 (Goffman, 1963)
- 認知症スティグマによって、認知症の方やご家族が、参加を控えたり、助けを求めにくくなる (Nguyen, Soc Sci Med, 2020)
- 認知症の問題ばかりがクローズアップされると、一層分断が加速、スティグマの悪化につながる

スティグマにおける負の悪循環



誰もが生き生き参加する社会がスティグマ 軽減に有効な可能性

認知症スティグマを持ちにくい傾向

高齢女性

認知症の
学習経験

認知症の人と
の活動経験

認知症スティグマを持ちやすい傾向

若年男性

社会参加
少ない人

地域への信頼
感が低い人

(Saito et al, Gerontol Geriatr Intl, 2023)

スティグマ軽減の方策

- 本人だけでなく**皆が生き生き社会参加**すること
- **生き生きしている姿をみる**こと(フレーム効果)
- 認知症の人を**感情や個性をもつ人として接する経験**

(Cuadrado et al., PLoS One, 2022)

利用者と提供者のwin-win志向が重要

- 企業の強みであること（≠持ち出し、社会貢献）
 - これまで顧客になれなかった層の新規獲得、離脱抑制
- 認知症施策を超えて共生社会へ
 - 異なる集団（子ども、その他）のニーズとの整合性も図る
 - 若い世代の顧客ニーズにも対応、認知症理解促進にも有効か

産官学民協働の必要性

それぞれの
異なる強み

産（民間企業）：プロダクト開発、展開

官（行政）：施策立案・実施、データ保有

学（研究）：専門知見提供、効果検証

民（地域住民）：利用・支援・社会参加

誰にでも優しい施設開発は、支える基盤、作る人、使う人、品質保証する人がいてこそ成り立つ

私たちが目指す最終ゴール

- 誰もが社会参加できる
- ウェルビーイングが向上する
- 経済と両立できる

認証制度化

認証施設を優遇する
仕組みづくり

多地域での
実装性検証

地域・場面に応じた応用版開発
継続性等の検証 (2028-)

UniCo施設検証

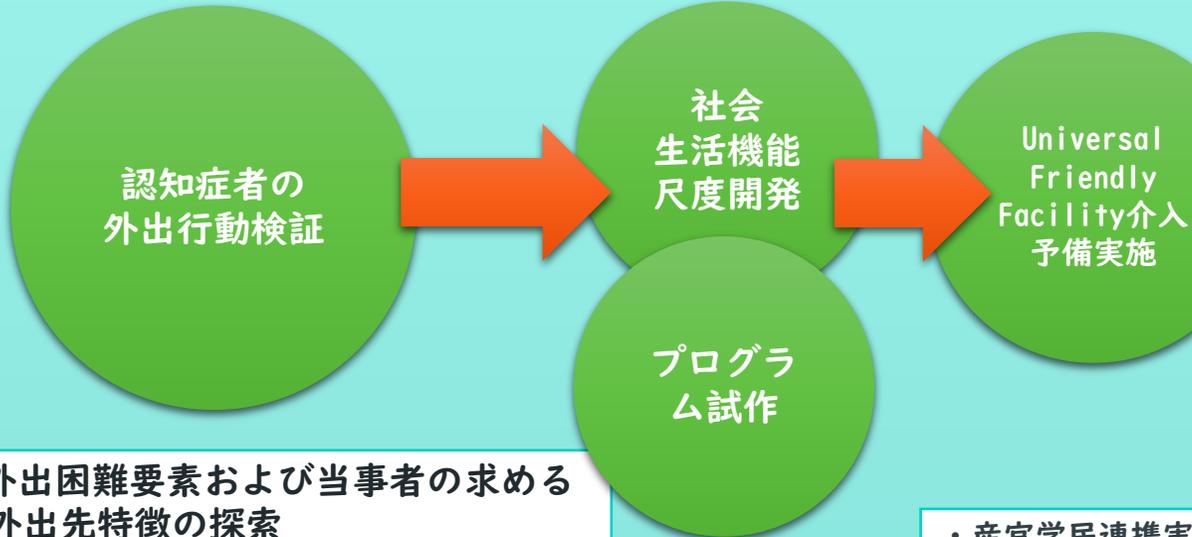
モデル施設検証
複数の共同研究実施 (2025-2027)

UniCo施設
試作

現在 (2023-2024)

スケジュール

Aステージ (2023.4~2025.3)



- ・ 外出困難要素および当事者の求める外出先特徴の探索
 - ・ レビュー・当事者インタビュー等
- ・ 好事例収集 (表示、施設、実践等)
- ・ 認知症者の外出行動特性検証
 - ・ 質問紙調査
 - ・ 自立高齢者との比較検証
 - ・ 家族・CM・地域住民の外出支援意識

- ・ アウトカム指標開発
- ・ 介入施設決定
- ・ 介入内容検討

- ・ 産官学民連携実施
- ・ 社会実験 (Iアーム)
- ・ Usability評価
 - ・ 認知症者、地域住民、社員

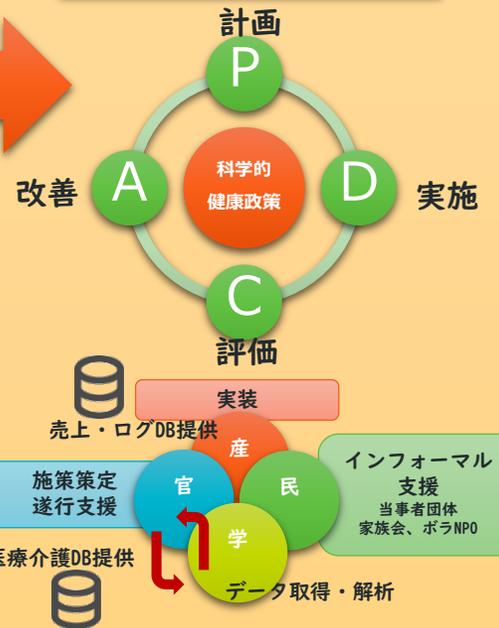
Bステージ (2025.4~2028.3)



- ・ 社会実験 (クラスターRCT)
- ・ 利用者および地域普及効果評価
- ・ 経済評価 (売上、介護DB)

Cステージ以降 (2028.4~)

実装：多地域展開



コンソーシアム形成

共同研究開始

UniCoコンソーシアムとは

UniCoコンソーシアム

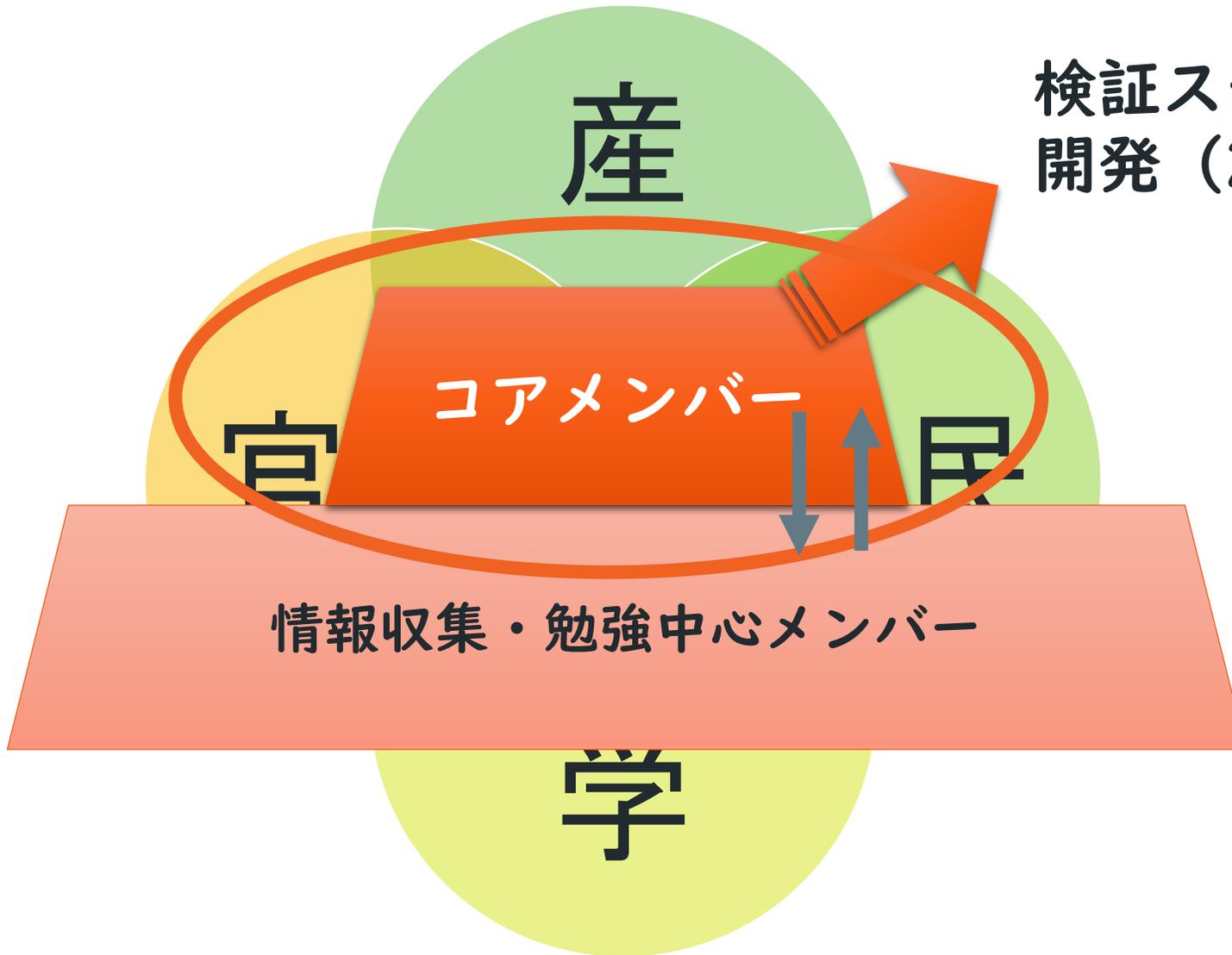
2023-2024 実質的にプレコンソーシアム（勉強会、ネットワーキング中心）

2025以降 コンソーシアム、契約、共同研究化（参加者マッチングを含む）

2023-2024（プレ）コンソーシアム

- 目標：
 - 誰にでも優しい施設づくりの進め方を理解する
 - 参加者間の協力体制構築
 - 共同研究の準備を行う（コアメンバー）
- 実施頻度：年3-4回
- 内容：勉強会および意見交換会が中心
- 参加資格：
 - UniCoに共感する民間企業、地域、行政関係者、研究者の方々
 - （可能な限り）コンソーシアムに出席できる方

(プレ) コンソーシアムの構成イメージ



検証ステージ・共同
開発（2025～）へ

- 探索ステージの2023-2024は、
2段階のメンバー構成
- コア⇔その他を移動可能

Take home message

- 超高齢化社会では、認知症等があっても社会経済生活
できる環境づくりが重要
- 施設デザイン、人材育成、喜び（生きがい）の仕掛け
→社会参加とウェルビーイング向上を目指す
- 「誰もが参加（ユニバーサル）」 「提供者にもメリット
のある（win-win）」アプローチ
- 産官学民の協力で初めて達成可能